

「大東文化大学看護学ジャーナル」発刊にあたり

大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科 1年

大東文化大学看護学会学生運営委員

増井 拓馬

一期生として一年の月日が流れようとしています。これはつまり大東文化大学の看護学科が創設されて一年が経つことを意味しています。まだ一年ですがさほど一年です。私たち一期生にとってはそれこそ激流にのまれるような一年でした。一期生という肩書に押しつぶされそうなこともあったし、そもそも上の代がないということがどんなにつらいかということが身に染みてわかった一年でもありました。病院での実習があり、難しい授業があり、さらに頭を抱えてしまうような看護技術の演習があり、とわからないことばかりでしたが、今まで触れる機会がなかった実習や演習は新鮮で心が躍るようでしたし、わからないことがわかっていく嬉しさもありました。

また、一期生だからこそ慣れない環境への不安、正解がわからないことの恐怖が大きく、右往左往することも少なくありませんでした。でもできることから一つずつこなしていけば、100%できないことは無かったと思います。様々なことを手探りしながら、自分のほうへ手繰り寄せ、自分の力に変えていくことができました。私たちはまだまだひよっこのひよっこかもしれませんが、ここから一步一步進んでいって新設看護学科と共に成長し、いつか羽ばたいていけると思っています。そして二期生以降の人たちには、私たちが手繰ってきたらないものは捨て、必要なもの、新しいものを手繰って成長して欲しいと、一期生として切に願います。

先生方のご指導を受けて私たち看護学科の学生はこれからも精進を続け、期待に恥じないような看護師になりたいと思います。そしてこの大東文化大学看護学ジャーナルが看護学科とともに発展していくことを願い、学生運営委員のご挨拶とさせていただきます。